



てんかんセンター巡り 第14回

独立行政法人国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター

施設概要

住 所 〒420-8688 静岡県静岡市葵区漆山886

電 話 054-245-5446 (代表)

ホームページ <http://www.shizuokamind.org/>

総 病 床 数 410床／てんかん病床200床

日本てんかん学会 計19名 (精神科医:3名、神経内科医:5名、小児科医:6名、
専門医・指導医 脳外科医:5名。2016年3月現在)

施設の特徴

当てんかんセンターは1975年に設立され、てんかん病床が200床、長時間脳波モニターが25台、てんかん新入院患者数が年間2,500～3,000人、てんかん外科の手術数が延べ1,300人以上と、世界最大規模のてんかんセンターです。当センターでは19名のてんかん専門医を中心に、30名以上の医師が診療にあたり、さらに看護師や薬剤師、検

査・放射線技師、リハビリ療法士、心理士、保育士、栄養士、ソーシャルワーカーなど多くの職種が協力し、てんかんのある人のさまざまな課題に取り組む「包括的てんかん診療」を実践しています。このため、新生児を除く全ての年齢層のてんかんのある人の診療を行い、治療においても薬物治療や外科治療だけでなく、食事療法(てんかん食)、療育指導、リハビリテーション、発達障害支援、疾病学習支援などを幅広く行うことが可能となっています。

施設からのアピール

当センターでは「包括的てんかん診療」を行っておりますが、その中でも最近のトピックは、包括的外科治療、てんかん学習支援、診療連携です。外科治療は1983年に開始した長い歴史をもち、日本全国からだけでなく、アジア各国、さらにはアメリカなどからも外科治療のために患者さんが来院しています。てんかんにおける外科治療は、ただ手術をするだけでなく、社会的な問題も含めて、術後に生じるかもしれない諸問題にも配慮する必要があります。当院では、術後のケアはもちろん、外科治療を目的として初診された時点から包括的に取り組むための「包括的てんかん外科初診外来」を開設しています。

てんかんのある人が自分の病気を理解し、実践的な対処能力を身につけ、積極的に病気に向き合うことは、生活の質の向上だけでなく、発作の減少にもつながります。当院ではてんかん学習プログラムMOSES(モーゼス)を導入し、医師やてんかん専門看護師、作業療法士、心理士などが学習を支援するコースを年に数回開催しています。

当院は、静岡てんかん地域ネットワークや、てんかん診療ネットワーク、全国てんかんセンター協議会などを通じて、地域だけでなく全国にまたがる診療連携を実践してきました。2015年に厚生労働省より、てんかん診療拠点機関に指定され、今後も地域、そして全国の医療機関と連携しつつ、てんかんのある人の診療とケアに積極的に取り組んでいきます。その活動のひとつとして、「てんかんホットライン」(TEL:054-246-4618、また

はsupport@shizukamind.org、

対応時間9~22時)

を開設しています。このホットラインでは、てんかんにかかる種々の相談を受け付けていますので、必要に応じてご利用ください。また、てんかんに関する情報は「てんかん情報センター」(<http://epilepsy-info.jp>)に集約しています。Q&Aなども充実していきますので、皆さまのご意見をお寄せください。

ちょうど、この原稿を執筆している3月は、病院中が紫色に染まっています。3月をパープル月間として、パープルデー^(※1)を祝ういろいろな催しが院内外で行われます。静岡市庁舎も、夜は紫にライトアップされます。

(寺田 清人)

※1 てんかん啓発キャンペーン(詳しくは、インターネットで「パープルデー」と検索してください)

